

平成30年度 第2回学校運営協議会記録

日 時：平成30年11月14日（水） 10:00～11:30

場 所：校長室

- 開 会 本協議会の成立確認 配付資料確認
- 学校長あいさつ
- 協議会委員紹介
 - ・後上 鐵夫 大阪体育大学教育学部教授 兼 社会貢献センター長
 - ・松尾 達子 泉大津公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
 - ・阪下 誠 和泉市教育委員会事務局 学校教育部 指導室 人権教育担当課長
 - ・南 三郎 和泉市池上校区会長 連合会長
 - ・石田 絹子 大阪府立和泉支援学校PTA元副会長
 - ・藤井 彰人 大阪府立和泉支援学校PTA会長
- 事務局員紹介 校長、教頭、事務長、首席、各部主事
- 学校長挨拶
- 協 議
 - 【1】学校経営計画の進捗状況について 校長より報告
 - 特別支援学校のセンター的機能強化については、小学校との交流及び共同学習は4回の予定をすでに7回実施しており、上回っている。中学校との交流は2回実施し、2学期以降も予定通り計画している。教育委員会との協議も順調に進んでいる。運動会、学習発表会等の学校行事やPTA行事を本校より地域へ発信することで、大勢の方々に来ていただいた。公開研修会を夏休み中に2回実施し計画的に進んでいる。小学校入学支援カードについてはより使い勝手のよいものを目指して継続して進めている。
 - 障がい特性や発達状況に応じた教育の充実については、公開研修、学部研修等で個別の教育支援計画の充実に努めている。保護者からの肯定的評価も94.3%あり目標を達成できている。個別の教育支援計画の検査の反映については、S-M社会生活能力検査を3学期にも実施を計画しており、順調に進めている。進路機関や校内での引継ぎが円滑に行われるように全学部の様式を統一することが進んでいる。事例検討会や全校研修会を夏季休業中に2回実施、部研修を7回実施し、教職員の教育力の向上に努めている。年間シラバスと指導案を教員に指示し、共有フォルダに入れて、全教職員で共有化を図ることで、教育の質の向上を目指す。教材データフォルダを作り、誰でもが見ることができ、利用できるような環境を作っている。ICT機器を用いた授業を公開研修会で3件発表し、校内自主研修に合わせて3回実施した。
 - 生きる力の育成については、卒業後を見据えた進路の充実、今年度は30社を確保、順調に内定もいただいている。離職については、3名あったが、後のフォローは就労・生活支援センターとつなぎ、手厚くアフターフォローをしている。職業コースの授業にキャリアプランニングマトリクスを引用することで、年齢や課題に応じた教育課程に位置付ける。進路ニュースの発行や保護者向け進路先見学会など幅広く実施している。朝の挨拶運動や除草作業で児童生徒の自尊心の向上を目

指している。自分の存在意義を意識し、校内や地域への貢献できるようにしている。

- 安全安心な学校作りの推進については、7月12月に防犯訓練を実施し意識付けを行っている。また、行方不明者対応訓練を4月に行っている。PTAと協力し、備蓄を行い2500食を確保できている。それとは別に教育庁から650食を府下の支援学校に送ってもらっている。火災避難訓練は、何時何分より実施と特定しない訓練を行っている。アレルギーに対する教職員の意識の向上のため、職員朝礼で周知するよう伸している。エピペンの校内研修(9月)、個人情報研修(6月)、いじめ体罰に関する人権研修(6月、7月)を実施した。

〈質問・意見等〉

- 交流教育において、具体的な内容を知りたい。具体的内容やどのような効果があるか？
- 池上小学校と学年毎の交流及び共同学習を行っている。小学校が町探険をした時には見学ルートに和泉支援学校を入れたり、お互いに学校訪問をした時はそれぞれの学校を案内したり、集団での遊びを通して、交流を深め共に学んでいる。教員同士もお互いに行き来して意見交換を通して反省を生かしている。
- 小学部・中学部・高等部それぞれに交流をしている。ゆくゆくは地域へ帰るので、交流を通して同じ学年の誰それが地域の一員として自他共に認め合える機会を作ることが大切になる。もう一つ居住地校交流という個人毎に交流する場面もある。
- どのくらいの時間交流しているか？
- 内容にもよるが、数十分から1時間くらい交流する。
- 生徒からの声は？
- 繰り返し交流する中で、名前を覚えたり、手紙を交換したり、学年の段階を追うごとに交流が深まっていく。
- 挨拶運動は校内でやっているのか？校外でやっているのか？
- 学級委員や生徒会執行部の生徒達24～5名位がバスから降りてくるみんなを出迎えながら、年3回校内でやっている。普段から挨拶をすることで、よりよいコミュニケーションを取っていこうという活動である。幟を立てたり、ポスターを作ったり、たすきをしたり工夫して取り組んでいる。
- 各自で作った教材を先生方が共有しお互いに利用しあうという素晴らしい取り組みの話があったが、学校間交流や居住地校交流を行う上で、地域の学校の先生方へ支援学校の先生方が持っているノウハウを伝授してもらうという支援学校のセンター的機能が求められている。支援学校の先生方が作られた教材が地域の先生方も使えることで、地域の中にいる障がいのある子どもたちの教育にも活用できるようにするというねらいもあるので、是非使えるように工夫して欲しい。
- 本校は3市1町の校区を持つが、その中の泉津市の中高連携会議にも参加している。特別支援教育のニーズが中高でも高まってきている。本校でやっているICT教材を含めて、使えるものがあればお知らせするし、それをする事でまた教えてもらえることがある。

【2】学校教育自己診断について 首席より報告

〈※ アンケートの項目・内容・結果集計については、当HP学校自己診断のページに掲載〉

- 今年度教育庁より、いじめに関する項目を必須とするように通達があり、今年度より新たに設問を設けている。設問内容を14項目に精選し実施した。

〈質問・意見等〉

- 教職員の意見の内容は教育長に届いているのか。
- 届いている。HPに掲載する義務があり、教育庁の閲覧を受ける。
- 教職員がどういう思いで勤めているのか。生徒たちの教育環境の改善に加えて、先生達の職場環境の改善という面でも表出しする必要があり、リンクさせて考えて欲しい。

- 学校運営に関する項目の結果が去年より全体的に低くなっているが、理由があるのか。
- 教育活動については好意的な評価を得ている。緊急時の対応が今年において台風時期と重なった。14番と19番のところに分析の必要がある。設問の仕方にも改善の余地がある。

【3】使用教科書について 教頭より報告

- 来年度使用する教科書の報告をする。
〈質問・意見等〉
- ☆(ほし)本の使用率はどうなっているか。
- 使用率までは出していないが、選定して使用している。
- 使用後はどうなっているか。
- 個人のものとして家庭に持ち帰っている。
- 受け取る児童生徒側はこれら全てを使用するのか。
- 各学年で教科書として取り寄せているが、全員が全てを受け取るわけではなく、課題に応じた教科書を必要に応じて選択している。107条本のリストからも選定する。

【4】その他 本校の地域連携活動について 首席より報告

- 特殊教育学会の大阪大会に、ICTの活用と地域連携を二本柱とする本校紹介のポスターや私学支援の取り組みについてのポスターを出展し、地域発信して来たことを紹介できた。その中で支援を必要とする生徒に対して支援していこうという情報を発信してきた。
学校単体への支援にとどまらず、3市1町の教育委員会との連携を深める取り組みを進める。
特別支援教育に関わる支援教育の動向を具体的に地域発信していきたい。
本校にとっては放課後等デイサービス等の福祉との連携が大きな課題の一つある。
地域のコーディネーター育成研修に行くことで一役買っている。教材の紹介など研修を通して裾野を広げる。
- 一般校に行っている生徒にも手帳を持っている生徒がいるため、支援教育の発信は重要である。
体制作りが必要になっている。
- 居住地校交流に参加した生徒が36件いるということだが、今後の課題として、交流をしたらゴールでなく、お互いの共通理解を深めていくことが課題となる。

○会長・運営委員まとめ

○学校長お礼

○次回連絡 平成31年2月13日(水) 10:00~12:00